

私のミライ

門川中学校 二年 松本 杏音

「夢」、「将来」、「未来」、私は今までそれらに漠然とした不安を抱えていた。どこに進学するのか、将来は何になりたいのか。

しかし、最近になって「夢」と呼べるものができた。それは、将来、教師になりたいという夢だ。そう思うようになったのは、小学生の時に担任をしていたいた、二人の先生方の影響がある。

一人は、小学校四年のときの先生である。その先生は話が非常に面白く、授業の合間や休み時間に話してくださる話に、皆が引き込まれた。私はその先生と話すのが好きで、人気のある先生だった。先生の授業はとても楽しく、退屈に感じる事がなかった。また、イベントごとに積極的に取り組み、盛り上げ、子ども思いの先生だった。そして、先生と一年間共に過ごしていく中で、私もこのように楽しく、おもしろく授業を行ってみたい、人を笑顔にしたいという思いが芽生えてきた。人を笑顔にする仕事がしたいと思った瞬間だった。

二人目は、六年生の時の先生で、この先生も授業がおもしろく、一生懸命な先生であった。ほめて伸ばすことがとてもうまく、その先生にほめられたくて、私たちは勉強を頑張り、学校の決まりを守って生活した。また、子ども一人一人に対して、真摯に向き合い、自学や日記を細かく見てくださった。コメントや評

価も本当にありがたかった。

この二人の先生方には、もちろん厳しきもあつた。だが、厳しいと同時に尊敬できるところがたくさんあつた。

私は、今この先生方を目標にしている。しかし、正直迷いもある。教師になるのは簡単ではないし、なつてからも大変で、きつと悩みは絶えないだろう。これはきつとどの職業に就いても同じだろう。

そんなことを考えているときに、ちょうどよい機会があつた。それは、九月の中旬に行われた職場体験学習だ。二日間にわたり、門川町内外あわせて五十を超える事業所に協力していただいた。私は教育に関する仕事に就きたいという希望から、自分がお世話になつていた認定こども園(旧保育園)に行かせていただいた。最初のうちは緊張もあり、園児たちとの接し方がつかめなかつたが、徐々に慣れていき、自分から動けるようにもなつた。仕事を手伝っていく中で、働いている先生方から様々なことを教えていただき、気づかされた。子どもとの接し方はもちろん、子どもの安全を確保したり、体調面を気にかけてりと常に気を配っていることが分かつた。また、空き時間の使い方や他の先生方との連携も印象に残っている。

今は「教師」という職業に目が向いているが、選択肢は無限に広がっている。ただ、人を笑顔にできる仕事に就きたいという事は確かである。そして、教師はその中で最も魅力的な職業だと思つている。

では、今後私はどうすればよいのだろうか。私は十

四歳という今の年齢が非常に大事だと思う。まだ十四歳と考えるか、もう十四歳と考えるかは人によるが、私はもう十四歳と考える。あと四年もすれば十八歳となり、世間からは大人として、社会人として見られることになる。自分は大人になれるのか、きちんと社会でやっていけるのか、不安が募る。その不安を払拭するには今からどんな準備が必要なのだろうか。

例えば、時間や約束を守るというのは、人の信頼に大きく関わり、社会で必要になるため、日頃から遅刻や忘れ物をしないように意識することだ。忙しくなると時間も余裕もなくなってくるため、今のうちに上手な時間の使い方を身に付けておきたい。今のうちにいろいろなことを吸収して、経験を積むことが大事だと思う。

では、具体的に何をすればよいのか。あれこれ考えたが、こういう考えに行き着いた。今取り組んでいる部活動や学校での授業、生徒会活動、自宅での学習など、今しかできないことに全力で取り組み、挑戦と失敗を繰り返しながら、経験を積んでいく。そうすることが私の思う「準備」の一番の近道なのではないかと思う。

そして様々なことに対応できる素敵な大人に、人を笑顔にできる大人になりたい。

私は今、十四歳。私のミライは希望であふれている。